

目的：生活科学的な立場から見ればもっとも能率的で使いやすい電気掃除機を普及させることは家事労働の合理化につながり，一般消費者のメリットとなるであろう。そこで掃除に関する米国における実態調査につづいて，日本の電気掃除機に関する工業規格（J I S¹⁾）の規定とGerma y・Sweden等を含む19カ国が制定にさん加しているI E C (International Electrotechnical Commission) 規定²⁾及び英国のB S I (British Standards Institution)³⁾ 規定との条項について比較検討を行なう。

検討内容：掃除性能に関する実験項目および実験方法について表示し，その内容を説明する。その重要項目は吸込仕事率，系の吸い上げ，家具の下の掃除，集じん能力等である。結果：J I S では使用上の掃除性能として吸込仕事率のみをとり（他に騒音について規定），外国の規定ではSuction Power とEfficiency のみならず，一般床に対する集じん効率，カーペット床に対する一般集じんおよび系くず集じん，更に床面のスリット等に対する試験等を詳細に規定している。すなわち使用条件における掃除性能を消費者側に立って具体的に提示しているものと考えられる。実際の掃除性能は吸込仕事率を1次的指数として他は副次的なものとするJ I S 規定と諸外国の規定との優劣については厳密な検討を必要としよう。

文献：1) 電気掃除機：日本規格協会発行（1980）。2) Methods of Measurement of Performance of Vacuum Cleaners for Household and Similar Use：I E C。3) Measuring the Performance of Household Electrical Appliance：B S I。